

公益財団法人

かめのり財団 アニュアルレポート

2024 年度 年次報告書

2024



他者が出会う場所に 豊かな社会は生まれる

世界は予期せぬ出来事の連続で戸惑うほどです。コロナ禍で中止されていたかめのり財団の事業が、ようやく例年通りに戻ってきたと思った矢先に、米国を震源地とした政治経済の津波がやってきました。私たちが持っていた価値観をも破壊するような勢いです。さらには止むことのないロシアとウクライナの戦争、イスラエルによるガザ攻撃、いたるところで起きる軍事的な小競り合い、そして地球温暖化、富の格差による貧困問題など、人類が歩んできた道は正しかったのかと思わざるを得ないほどの状況に私たちは直面しています。

このような時代だからこそ忘れてはいけないのは、他者を理解しようと努めることです。若者が他国の人と知り合い、交流を深め、文化や考え方を理解し合うことから小さな輪が広がり、人生や社会は少しずつ豊かになっていくと信じています。

これからもかめのり財団は多くの皆様のお力をお借りしながら、微力ではありますが、一步一步、地道な歩みを続けていきたいと思っています。

かめのり財団 理事長
宮嶋 泰子

公益財団法人 かめのり財団は
日本とアジア・オセアニアの
若い世代の交流を通じて
未来にわたって各国との
友好関係と相互理解を
促進するとともに
その架け橋となる
グローバル・リーダーの
育成を目的に事業を行っています

今号の内容

かめのり財団 活動の方針とその実践	3
奨学事業	4
2024 年度修了生・2025 年度新奨学生 夏の研修交流会 in 富山	
国際交流事業	
青少年交流事業	6
かめのりカレッジ 2024 第8回高校生カンボジアスタディツアー かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト 2024 (KAFL)	
国際交流事業助成	8
多文化共生地域ネットワーク支援事業 連続セミナー 2024 日本文化交流に向けての人材育成事業 ～日本庭園を通じて～	
海外日本語教育サポート事業	10
にほんご人フォーラム 2024 にほんご人フォーラム関連事業	
基盤支援事業	12
かめのりフォーラム 2025 かめのりセッション 2025 第18回かめのり賞 受賞団体のご紹介 講演会	
財務のあらまし / 評議員・役員一覧	15
国際交流事業 / 今後の予定	16
海外日本語教育サポート事業 ベトナム初中等日本語教育教科書等作成・整備事業	

かめのり財団 活動の方針とその実践

ミッション：基本方針

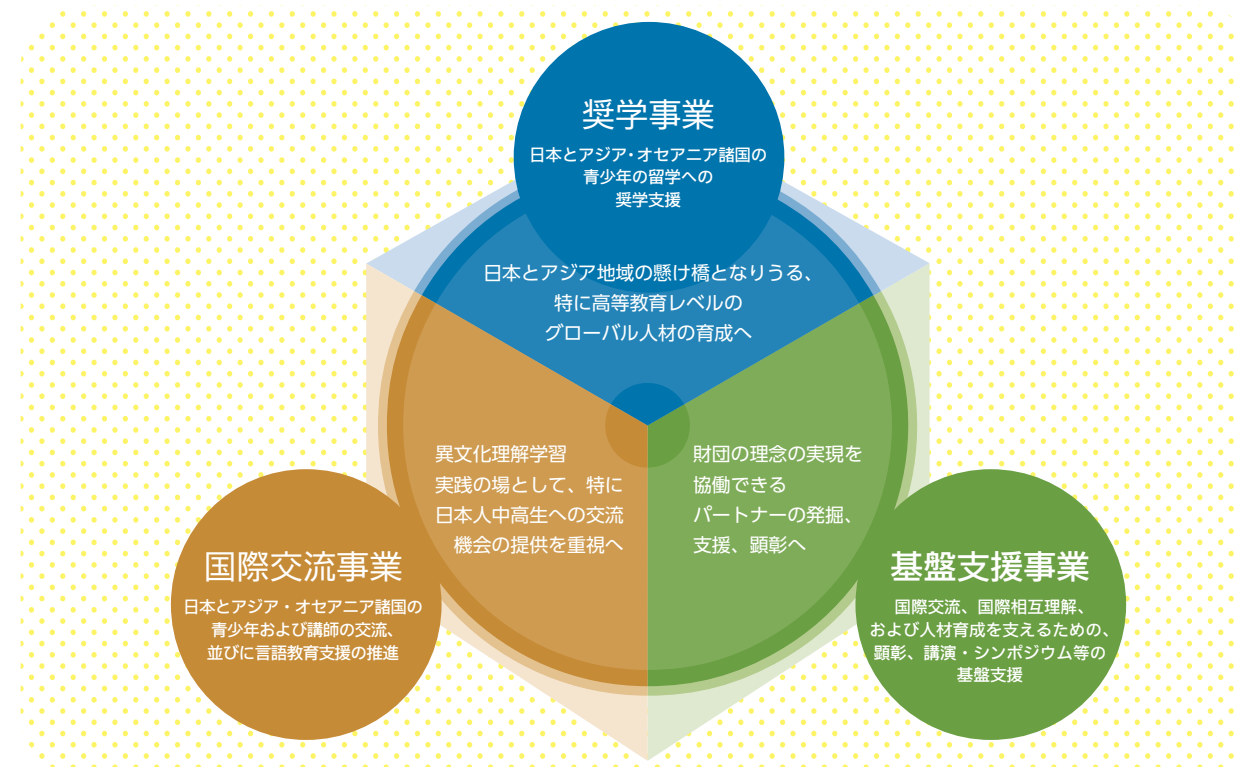
かめのり財団は、2007年に設立され、2011年に公益財団法人として認可されました。その活動の目的は、日本とアジア・オセアニア地域の若い世代の交流と、その懸け橋となる人材育成を通じて、未来にわたって各国との友好関係と相互理解を推進することにあります。

この目的を達成するため、柱となる3つの事業「高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業」「青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業」「それらの推進のための、顕彰、講演・シンポジウム等の基盤支援事業」を実施してきました。

ビジョン：10年の目標

財団設立10年目の2016年度には、その後の10年間の活動方針として、次の3つの目標を掲げ、以後この方針のもと様々な活動を続けています。

1. 前向きにチャレンジし続ける「かめのりスピリット」をもつ若い人々の育成
2. 異なる文化の人々と信頼関係を築き協働できる若い人々の育成
3. ゼロから考え創る力を持つ若い人々の育成



奨学事業

日本の大学院で正規生として研究を行う、アジアからの留学生を支援しています。毎月20万円の奨学金を支給し、面談等を通じたサポートを行うほか、夏休みには研修交流会を実施し、研究発表や奨学生同士の交流の場、日本の地域や文化を知るための機会を提供しています。

2024年度は3名の奨学生が修了し、2025年度奨学生として新たに3名が決定しました。

大学院留学奨学金

2024 年度修了生



陳 籽言

Chen Ziyang チェン ジアン (中国)

横浜国立大学大学院 環境情報学府
自然環境専攻 生態学プログラム (博士前期) 修了
奨学金受給期間: 2023 年 4 月 ~ 2025 年 3 月
研究テーマ: 都市近郊における里山環境の異なる土地利用による植物群集の多様性と生態系サービスの違い

かめのり財団の支援により、修士課程を無事修了できました。日常的な相談でも大変お世話になり、心強く感じました。奨学生同士の交流に加えて、財団の先生方からも研究での挫折や失敗があっても諦めない精神を学びました。これから進学し、研究者としてその精神を活かして挑戦を続けたいと思います。心より感謝申し上げます。



黄 沐春

Huang Muchun コウモクション (中国)

早稲田大学大学院 商学研究科 (博士前期) 修了
奨学金受給期間: 2023 年 4 月 ~ 2025 年 3 月
研究テーマ: AI は国際貿易にどのような影響を与えるか

正直、大学院は甘くなかったです。心がポキッと折れそうな時、かめのり財団の面談がまるで「月イチの心療内科」。くだらない話も真剣に聞いてくれて救われました。ここで出会えた仲間と笑い合えた時間も、何よりの宝物です！



侯 心琦

Hou Sin Chi ホウ シンチ (台湾)

名古屋大学大学院 経済学研究科
社会経済システム専攻 (博士前期) 修了
奨学金受給期間: 2023 年 4 月 ~ 2025 年 3 月
研究テーマ: 企業価値評価考察—日台企業を例として

かめのり財団の行事に参加する中で、自身の専攻分野を超えた幅広い知見を得ることができました。困った際には、かめのりファミリーの皆さんから心強いアドバイスをいただきました。このご縁を大切に、今後はOGとして、かめのり財団に恩返しできるよう尽力していきたいです。



2025 年度新奨学生



宋 在洵

Song Jaewon ソンジェウォン (韓国)

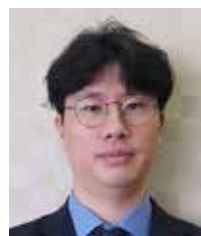
早稲田大学大学院 社会科学研究科
地球社会論専攻 修士課程
奨学金受給期間: 2025 年 4 月 ~ 2027 年 3 月
研究テーマ: 韓国を始点としたアジアにおける積極的平和の実現について



グエン ティ トゥイ リン

Nguyen Thi Thuy Linh (ベトナム)

東京外国語大学大学院 総合国際学研究科
国際日本語専攻 博士後期課程
奨学金受給期間: 2025 年 4 月 ~ 2028 年 3 月
研究テーマ: 現代日本語における形式名詞と結合する助詞「が」について



朴 亨哲

Park Hyung Chul (韓国)

横浜国立大学大学院 国際社会科学府
国際経済法学専攻 博士後期課程
奨学金受給期間: 2025 年 4 月 ~ 2028 年 3 月
研究テーマ: 日韓安全保障協力関係の再考: GSOMIA 締結過程の分析

奨学事業

夏の研修交流会 in 富山



2024年9月3日から5日の3日間、富山市内で「夏の研修交流会」を開催しました。この行事は、大学院奨学生が研究発表や交流を通じて学びを深める場として、毎年実施されています。富山市は、豊かな自然と文化に恵まれた環境であり、学びとリフレッシュの場として理想的な場所となりました。

初日は、奨学生同士の親睦を深める交流ランチから始まりました。富山で集合した9名は、地元の料理を楽しみながら、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。その後、研修会場へ移動し、それぞれが研究内容について発表しました。教育、歴史、社会学、栄養学など幅広いテーマについて活発な議論が交わされ、互いに刺激を受ける貴重な機会となりました。また、OGによるキャリアに関するミニ講義や、西田常務理事による特別講義も実施され、奨学生たちは学業に加えて将来設計のヒントを得ることができました。



2日目の午後まで研究発表が続き、その後は自由行動で富山市内を散策しました。富山城や展望台を訪れたり、海へ足を運んだりすることで、街の魅力を堪能しました。3日目には県内の観光地を巡るアクティビティを体験。庄川峡の遊覧船や五箇山合掌造り集落の散策、集落での暮らしと歴史の学び、木彫り体験、鱒寿司ミュージアム訪問など、多彩な活動を通じて富山の自然や歴史、伝統文化に触れました。

参加者からは、「研究発表を通じて視野が広がった」「他分野の知識に触れ、新たな発想が生まれた」といった前向きな声が聞かれました。また、「OGや常務理事の話は実践的な知見に富み、今後の参考になった」「富山の自然や文化、食との出会いは新たな発見の連続だった」との感想も寄せられました。

奨学生同士の交流は、研究への刺激や励みとなるだけでなく、今後のネットワーク形成の貴重な機会となります。学びと友情が交差する充実した3日間として、それぞれの記憶に深く刻まれました。

国際交流事業 青少年交流事業

日本およびアジア各国の青少年を主な対象として、国内外での交流事業を、複数の国際交流団体との協働により実施しています。2024年度は5年振りに、「高校生カンボジアスタディツアー」の現地開催が叶いました。また「かめのりカレッジ」「かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト」では、日本とアジア各国の大学生や高校生が、日本国内で交流や学びを深めることができました。

かめのりカレッジ2024

かめのりカレッジは、国際的な視野の拡大、英語での発信力強化、クロスカルチャー体験、プレゼンテーションスキルの4点を柱としており、自己主張可能な人材を育成することを目的としたプログラムです。2024年度は、日本から15名、アジア4カ国（インドネシア、フィリピン、マレーシア、タイ）から4名、合計19名の大学生が参加しました。

事前プログラムとして、オリエンテーションや計4回の英語レッスン、チームディスカッションがオンラインで行われ、プレゼンテーションの準備と英語での発信力を強化し、メインプログラムに備えました。

8月25日から28日には、東京都内に参加者全員が集まり、3泊4日でメインプログラムが実施されました。4日間の合宿研修では、プレゼンテーションスキルの向上、様々なバックグラウンドを持つ講師によるセッション、チームワークショップが実施されました。環境問題やグローバル企業の成長、キャリア選択など、多様

なテーマについて学び、活発な議論が交わされました。

最終日のチームプレゼンテーションは、問題分析や解決策の提示を通じて、身につけたプレゼンテーションスキルを活かし、チームワークを発揮しました。こうした経験から、学生たちは新たな価値観を学び、国際的な視野を広げる貴重な機会を得ました。

参加者からは、「世界を視野にいた考え方や姿勢を、様々な観点から学ぶことができた」「お互いに刺激し合い、切磋琢磨しながら成長することができた。三食共に生活することでお互いを理解し合い、最後の別れの時は涙が出そうな程、感慨深かった」「失敗を怖がらない姿勢を身につけられた。自分の価値観や考え方を大きく変えられたプログラムだった」といった声が聞かれました。挑戦と成長の場となり、今後の学生生活やキャリアに活かせる学びの機会となったようでした。このプログラムでの経験と学び、出会いが、今後の飛躍につながることを願っています。



青少年交流事業

第8回高校生カンボジアスタディツアー

（公社）日本ユネスコ協会連盟との共催で、2024年7月30日から8月5日まで実施しました。このツアーは、2019年以来5年ぶりに現地への派遣が叶い、高校生たちがカンボジアの文化や歴史を学びながら、国際交流を深める貴重な機会となりました。

参加者は、現地の教育機関や寺子屋（識字教育を行っている施設）やそこに通う人々の家庭を訪問し、人々の暮らしの様子やカンボジアの社会課題について理解を深めました。さらに、遺跡や戦争遺構、博物館の見学を訪れるフィールドワークを通じて、カンボジアの歴史や伝統を深く学ぶことができました。



このスタディツアーは、参加者にとって、平和や人権と向き合い、国際的な視野を広げるきっかけとなりました。参加者は帰国後も、事後活動や報告会を通じて、それぞれに学びや経験を活かしています。

今後もこのような交流の機会が継続されることで、より多くの若者が世界に目を向け、平和な未来をともに形作っていくことを期待しています。

かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト2024 (KAFL)

（特非）青少年育成支援フォーラムの協力もと、「全員発揮型のリーダーシップ」について理解を深め、そのために必要なスキルを身につけることを目指す、高校生と大学生を対象としたプログラムを2022年より実施しています。

2024年度は、オンライン研修・オンデマンド学習を経て、2024年12月7日・8日の合宿研修に、全国から選抜された高校生および大学生計21名が参加しました。参加者はワークショップ、グループディスカッションなどの活動を通じて、自分とメンバーの強みと弱みを知り、それぞれが強みを活かす全員発揮型リーダーシップスキルを磨きました。社会課題に取り組むプロジェクトでは、参加者それぞれの視点で社会課題を捉え、各自がリーダーシップを発揮しながら、具体的な行動案の発表に漕ぎつきました。

活動を通じて、参加者は自分らしいリーダーシップとは何かに気づき、参加者同士が活動や交流を通じた絆を築くことができました。



国際交流事業

国際交流事業助成

かめのり財団では2021年より、国際交流や多文化共生の現況と今後の課題に焦点をあてたオンライン連続セミナーを実施しています。また2022年度からは「多文化共生ネットワーク事業」として、日本各地の多文化共生分野で活動する団体・個人を支援する取り組みを展開しており、ネットワーク構築が進んでいます。

多文化共生地域ネットワーク支援事業

かめのり多文化共生塾 2024

(一財)ダイバーシティ研究所のご協力のもと、地域の担い手に必要な多文化共生分野の知識と、組織や事業のマネジメントスキルを学ぶ研修の場として「かめのり多文化共生塾2024」を実施しました。各地域の多文化共生分野で先駆的に活動している団体による実践事例紹介のほか、分野別解説として日本で暮らす外国人の現状やこれからの日本語教育、生活支援、誰もが暮らしやすい地域づくり等について学びました。その後、近い課題に興味を持つ参加者同士でグループを作成し、課題解決について企画提案を行い、その提案を発表し合いました。意見交換や質疑応答なども活発に交わされ、学びの多い3日間となりました。

	神戸	東京
	2024年9月14日(土)～9月16日(月祝)	2024年10月12日(土)～10月14日(月祝)
第1日	坂西 卓郎 (PHD協会) 本田 文代 (場とつながりの研究センター)	市川 斉 (シャンティ国際ボランティア会) 浅倉 みさき (青少年自立援助センター)
第2日	神吉 宇一 (武蔵野大学) フフデルゲル (神戸定住外国人生活支援センター) 朴 徹雄 (ゲストハウス萬家)	増田 麻美子 (文部科学省日本語教育課) 菊池 哲佳 (桜美林大学) 渡邊 崇志 (ゲストハウス品川宿)
第3日	田村 太郎 (ダイバーシティ研究所)	
参加者数	27名 ※一部のみ参加者含む 修了者: 26名	21名 ※一部のみ参加者含む 修了者: 20名



持続可能な地域づくりをめざす担い手育成のための多文化共生ネットワーク会議

2025年1月24日～26日、日本各地から多文化共生に関わる個人・団体が集まり、富山県内の多文化共生団体や施設を視察したり、能登半島地震の被災地支援に携わる方々や外国ルーツの被災者からの話を聞いたりしました。フィールドワークの移動中には積極的な交流が生まれ、また座学でのグループ討議を通して情報交換が進んだことで、顔見知りの関係が広がり、参加者同士のネットワークが深まりました。

1日目	かめのり多文化共生・共創の未来とやま 合同交流会
2日目	フィールドワーク 富山における多文化共生活動の現場視察 公開セミナー第1部 「地域から考える多文化共生の推進とNPOの役割」 公開セミナー第2部 「能登半島地震から見た多文化共生の課題」
3日目	オプションツアー 能登半島地震の被災地視察
参加者数	公開セミナー会場: 19名 / オンライン(第1部): 35名(第2部): 46名



国際交流事業助成

多文化共生地域ネットワーク支援事業 事業助成

助成総額	5,500 千円	採択団体一覧	
国内の多文化共生分野で活動する11 団体・個人が採択され、外国ルーツの在住者への日本語教育や生活支援など、地域や市町と連携した支援や活動を実施しました。		特定非営利活動法人あいちかすがいつこ	Lin Com
		特定非営利活動法人可児市国際交流協会	一般社団法人北上市国際交流協会
		長久手市国際交流協会	特定非営利活動法人つどう場こうべ
		ニエケ ひとみ (個人)	特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお
		特定非営利活動法人トルシード	一般社団法人甲賀市国際交流協会
		鹿沼市国際交流協会	

連続セミナー 2024

2024年度連続セミナーは、「高齢化・人口減少の加速に備える持続可能な地域づくりと、国際交流・多文化共生のこれから」をテーマとし、外国人材の受け入れ、多文化共生の促進、地域社会の持続可能性に焦点を当て、計4回にわたって開催されました。

各回、地域における国際交流・多文化共生の実践者が登壇して事例を紹介し、活発な意見交換がなされました。最後に進行役の川北氏が、日本が直面する少子高齢化や人口減少の課題に対し、統計や推計を基に考える重要性を改めて強調しました。持続可能な地域づくりを実現するためには、国際交流や多文化共生の取り組みを基盤とし、地域と個々人が連携して課題解決に取り組むことの重要性を訴え、締めくくりました。



2024年度「高齢化・人口減少の加速化に備える持続可能な地域づくりと、国際交流・多文化共生のこれから」

第1回	2024年6月10日(月)	高齢化「第2幕」と人口減少の推移をもとに、地域における今後の予測を立てるための基礎理解
解説講義: 川北 秀人氏 IHOE [人と組織と地球のための国際研究所]		
第2回	2024年6月17日(月)	都心部における新しい国際交流・多文化共生事例
栗林 知絵子氏 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 宮城 潤氏 地域サポートわかさ		
第3回	2024年7月1日(月)	地方都市における新しい国際交流・多文化共生事例
菅原 渉氏 菅原工業 山口 ちえ氏 東川日本語学校 多文化共生室		
第4回	2024年7月5日(金)	求められる支援の在り方
矢野 花織氏 北九州国際交流協会 新居 みどり氏 国際活動市民中心		

所属・肩書は登壇当時のものです。

※ かめのり財団ホームページでは、セミナー各回の抄録を掲載中です。ぜひご覧ください。

日本文化交流に向けての人材育成事業 ～日本庭園を通じて～

2024年度からの新しい試みとして、(一社)日本庭園協会が実施する文化交流事業への助成を行いました。これは、日本の若手造園家をオーストラリアへ派遣し、次世代の造園家の育成と国際交流を支援するものです。初年度となる今回は、京都の(株)曽根造園の水野貴士さんが、2025年1月31日～2月

28日の1カ月間のなかで、シドニーを中心とした植物園や造園会社での実務研修として、日本との環境や技術、植生の違いを学びました。日本の技術に強い関心を持つオーストラリアの造園家の方々から温かく迎えられ、次年度につながる充実した研修となりました。



国際交流事業

海外日本語教育 サポート事業

2012年度以来、(独)国際交流基金との協働で、東南アジア各国における日本語教育を支援する事業を実施してきました。2024年度は5年ぶりに、日本と東南アジア各国の生徒・日本語教師が集う「にほんご人フォーラム」を日本にて実施しました。また、ベトナムでの日本語教科書制作への支援、そして東南アジア5カ国の各国での「にほんご人フォーラム関連事業」を行いました。

にほんご人フォーラム 2024

国際交流基金日本語国際センター（さいたま市）で開催された「にほんご人フォーラム 2024」（JSF2024）には、事前のオンラインセッションを経て 2024 年 8 月 18 日から 25 日に、インドネシア・タイ・フィリピン・ベトナム・マレーシアの中等教育機関で日本語教育に携わる教師 10 名、各国で日本語を学ぶ高校生 20 名、そして日本の高校生 4 名が参加しました。

教師プログラムでは、次世代に必要な能力を育む日本語授業・活動案の考案を目指しました。各国の教育を分析し、実際に生徒プログラムを体験・観察。また、参加した教師同士のディスカッションや講師との相談を通じて理解を深め、国ごとのグループで、自国で実践できる授業案を作成しました。最終発表では日本語教育を通じたスキル育成について考察し、帰国後の実践にもつなげていきます。

今回の生徒プログラムのテーマは「わたしのまちはサステナブル？」でした。フォーラムの期間中はグループで活動し、フィールドワーク、ディスカッション、各国の文化紹介などを通して様々な価値観や社会とつながる力、異文化環境の中で協働する力を養いました。最終日には、サステナブルについてグループの考えをまとめ、自国の友達に学んだことを伝える 3 分の動

画を日本語で作成し、発表しました。また、海外から参加した生徒は、埼玉県内でのホームステイも経験しました。

参加者アンケートより抜粋

・サステナブルだけでなく、チームワーク、他国の文化についての理解、外国人の友達作りなど、多くのことが勉強できた。過ごした5日間は本当に楽しく有意義だった（生徒）

一番伸びたのはコミュニケーションスキル、チームワークスキルと自己表現力（生徒）

このプログラムを通じて、生徒の能力をどのように育成し、発展させていくかをより明確に理解することができた（教師）

大切なことは活動の流れ、そしてあまり指示をしないで生徒の力を信じる（教師）

色々な国の先生と出会って、意見交換できてよかった（教師）

マレーシアのグループが台風の影響を受けて来日が遅れる事態となりましたが、各国の教師・生徒が交流を深め、学び合う充実した時間が、5 年ぶりに実現しました。2025 年度は、タイ・バンコクでの開催を予定しています。



海外日本語教育サポート事業

にほんご人フォーラム関連事業

「にほんご人フォーラム2024」（JSF2024）での学びや実践を展開する関連事業を、東南アジア 5 カ国で（独）国際交流基金と共催しました。

中等教育日本語教師全国研修2024（ベトナム）

2024年8月6日～7日、ハイフォン市で「中等教育日本語教師全国研修2024」を開催しました。異文化理解と教育の深化に寄与するものとして、全国から22名の教師が参加しました。21世紀型スキル育成をテーマとして授業計画を立案し、実際に高校生向けの授業を実施したほか、グループ活動を通じて授業案を考える過程では、教師同士が協力して多様なアイデアを生み出しました。



にほんご人フォーラム 2024（マレーシア） ～中等教育日本語教師キャンプ～

2024年10月9日～11日にクアラルンプールで開催された中等教育日本語教師キャンプには、日本語教育の意義をテーマに、中等教育教師54名が参加し、議論やワークショップを通じて互いに刺激を受けました。當作靖彦教授によるソーシャル・ネットワーキングアプローチの紹介が特に好評で、参加者は教育の新しい視点を獲得することができました。



にほんご人フォーラム 2024（インドネシア） にほんご人フォーラム報告&体験ワークショップ

2024年11月21日にマカッサル（南スラウェシ州）、2025年1月23日にシドアルジョ（東ジャワ州）にて教師向けのワークショップを実施し、各地域の中等教育教師が合わせて52名が参加しました。「生徒の視点で授業を考える」という達成目標に向けて、活動・交流を通じて楽しみながら学びを深めました。



にほんご人フォーラム 2024 2.0（フィリピン）

2024年11月27日～29日、ボホール島で「Feel Bohol ! Discover the Future !」をテーマに「にほんご人フォーラム2024 2.0」を開催しました。生徒たちは、知的障がい者の社会参加支援や環境保護、伝統文化の継承などをテーマとして学びながら、フィールドワークやディスカッション、そして演劇による発表などを通じて、創造力と21世紀型スキルを培いました。



2024年度にほんご人フォーラム関連事業（タイ）

JSF2024参加教師と生徒の事前・事後支援を行いました。またタイで開催されるJSF2025の準備として、タイ教育省職員を視察のため日本へ招へいしました。タイの中等学校の日本語教師31名は「2024年度タイ日本語教師キャンプ」に参加し、メイン講師は2回の準備合宿で考案したプログラムやフィールドワークを実践しました。



基盤支援事業

日本とアジア・オセアニア諸国との国際交流、国際相互理解、そして人材育成を支える基盤支援として、2007年より「かめのり賞」の顕彰と「講演会・シンポジウム」活動を、2009年からは「かめのりフォーラム」を行っています。これは、財団の理念の実現に向けて協働できるパートナーの発掘や支援活動でもあります。

かめのりフォーラム 2025

2025年1月10日、アルカディア市ヶ谷にて「かめのりフォーラム 2025」を開催しました。これは宮嶋理事長就任後初となる開催で、2024年度のプログラムに参加した高校・大学生、大学院奨学生をはじめ、財団の活動にご協力下さった方々など、125名が参加しました。

冒頭では宮嶋理事長が、かめのり財団の根底に流れる「社会から与えられたものを社会に還元せよ」との考え方を、自身の歩みと重ね合わせて紹介。また(独)国際交流基金上級審議役の大谷圭介氏より祝辞を賜り、共催する「にほんご人フォーラム」の成果やかめのり賞の意義についてお話いただきました。

かめのり賞表彰式に続き、2024年度の「かめのりカレッジ」「にほんご人フォーラム」「高校生カンボジアスタディツアー」「かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト」参加者が発表を行いました。またゲストスピーチとして、(一財)ダイバーシティ研究所代表理事の田村太郎氏が登壇し、『若者がつくるこれからの多文化共生』と題した講演で、自身の経験や

社会情勢を映すデータを交え、多文化共生の推進は「地域の未来のため」であることを強調しました。

さらに懇親会では、(公財)国際文化フォーラム理事長の佐藤郡衛氏の祝辞の後、プログラム参加者の紹介、過去のかめのり賞受賞者の近況報告の傍らで、出席者同士の活発な交流が会場全体に見られました。



かめのりセッション 2025

2025年1月11日には国立オリンピック記念青少年総合センターにて「かめのりセッション2025」を実施し、「第8回高校生カンボジアスタディツアー」の参加高校生10名、現役奨学生9名と奨学生OBOG7名が参加しました。高校生はプログラムの振り返りと今後の活動の提案を、奨学生は次の夏の研修交流会に向けた相談と、同窓生ネットワーク構築についての話し合いを行いました。

セッションの最後には、かめのり財団創設者で評議員の康本健守が、海外での事業経験を元に参加者と意

見を交わし、「どんな時でも前向きに挑戦してほしい」とのメッセージが贈られました。



基盤支援事業

第18回かめのり賞 受賞団体のご紹介

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰するものです。2024年度は外部有識者を含むかめのり賞選考委員会により、3団体の表彰が決定しました。



かめのり大賞 草の根部門

特定非営利活動法人 アレッセ高岡



地方の外国人散在地域において、外国につながる子ども・若者を中心に市民性教育を展開。言語や文化、宗教、性別、年齢、障害の有無等の違いを越え、地域の未来を築く学びの場を作り、地域課題に向き合い、解決に向け歩む人を育成する。「ふるさとの未来は私たちがつくる」を合言葉に、当地域ならではの多文化共生の形を子ども・若者たちと模索し、全国・世界への発信を目指す。



かめのり大賞 人材育成部門

特定非営利活動法人 国際活動市民中心 CINGA (Citizen's Network for Global Activities)



「まあ〜るい地球をつくります」を掲げ、在住外国人の問題・課題解決のために弁護士、行政書士、医師、研究者ら専門家で構成する組織として発足。行政・企業・各団体等との連携を深めながら、無料相談会や、日本語学習を通じた双方向の学びの実践、少数言語通訳の派遣、外国人対応の窓口担当者へのアドバイス、若者の進学・就職相談などの幅広い活動を展開。



かめのり特別賞

特定非営利活動法人 あおぞら



医師の葉田甲太が、『全ての命が大切にされ、その人らしく生きることができる社会』を目指して設立。途上国の医療者に新生児の命を救う新生児蘇生法を教える活動、高齢者のリハビリテーションを中心とした医療支援や水衛生改善の支援活動をカンボジアとラオスを中心に展開しながら、その経験を、日本各地の講演会・ワークショップにて語り、発展途上国の現状を生の声で届けている。



基盤支援事業

講演会

アジアの国々との相互理解の促進とグローバル人材育成を目的として、當作靖彦教授(カリフォルニア大学サンディエゴ校)を講師に、2024年度はマレーシアおよび名古屋市で講演会を行いました。AIをはじめとするテクノロジーが発達し、未来を予測することが一段と困難な時代を生き抜くために重要な価値について、「つながること」をキーワードとして、講演・ワークショップを実施しました。

聴講した高校生たちには、この混乱と変化の社会のなかでも「リスクを恐れず世界とつながる」ことを目指して



ほしい、と力強く伝えました。また、これからの若い世代を導く教師たちには、「教師の役割は言語を通して人間力や社会力を養い、人間の成長につなげる」ことであると説き、それぞれに励ましの言葉を送りました。

クアラルンプール (マレーシア)

国際交流基金クアラルンプール日本文化センター (JFKL) 「中等教育日本語教師キャンプ」 最終日のワークショップ

日程：2024年10月11日(金)
会場：Cititel Mid Valley Hotel KL 会議室
参加者：マレーシアの中等教育機関の日本語教師 50 名
講演タイトル：「未来志向の日本語教育：なぜ・何・どう」



第 21 回マレーシア日本語教育国際研究発表会 基調講演

日程：2024年10月12日(土)
会場：マレーシア日本国際工科院 (MJIT)
参加者：マレーシア、日本および国外からの日本語教師 74 名
講演タイトル：「未来志向の日本語教育：人間性・人間力と AI」



名古屋 (日本)

名古屋大学教育学部附属高等学校 講演会

日程：2025年2月10日(月)
会場：名古屋大学教育学部附属高等学校
参加者：高校 1 年生 120 名、および教員
講演タイトル：「21 世紀を生きる地球市民になるために」



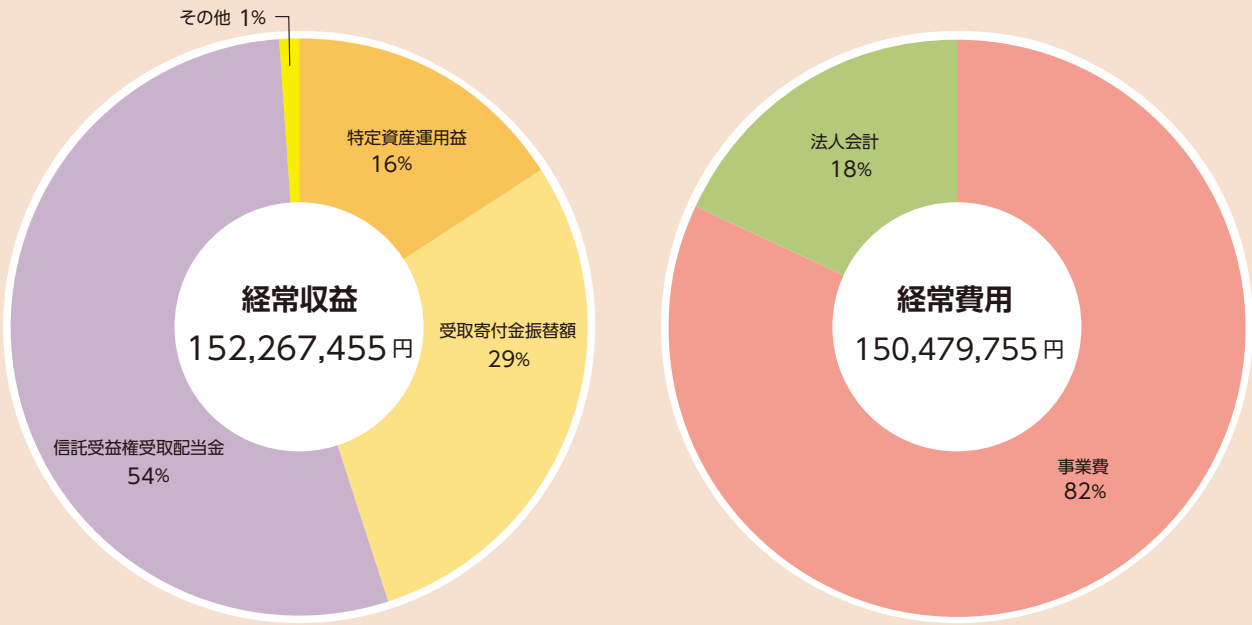
名古屋大学言語教育センターキックオフシンポジウム 「未来にはばたけ！ことばの教育」 特別講演

日程：2025年2月10日(月)
会場：名古屋大学 文学部本館
参加者：言語と教育に興味がある名古屋大学の学部生、大学院生、教職員、研究者、留学生
講演タイトル：「未来戦略としての外国語教育」



※ かめのり財団ホームページでは、各回のレポートを掲載中です。ぜひご覧ください。

2024 年度 財務のあらまし



評議員・役員一覧

評 議 員			
康本 健守	共立ビル(株) 取締役	森園 浩一	国際教養大学 名誉教授
上原 史子	岩手県立大学総合政策学部 准教授	力武 義之	四谷川添産婦人科 院長
河野 宏子	(株)コーチ・エイ シニア エグゼクティブ・コーチ	王 敏	法政大学名誉教授、桜美林大学大学院特任教授
袖崎 義俊	元・三菱商事(株) 参事		

理 事	
会 長	理 事
木村 晋介	弁護士
理事長	理 事
宮嶋 泰子	(一社)カルティベータ 代表理事
常務理事	理 事
西田 浩子	前(公財)かめのり財団 事務局長
理 事	理 事
中野 嘉子	東京理科大学 教授
	藤井 純一 (公財)渥美国際交流財団 監事

監 事	
勝守 令三	元(株)プロウ 総務部長
山本 和夫	公認会計士・税理士

国際交流事業

海外日本語教育
サポート事業ベトナム初中等日本語教育
教科書等作成・整備事業

2021年度から実施してきた「ベトナム初中等日本語教育教科書等作成・整備事業」は、ベトナムの初中等教育において日本語教育の新カリキュラムに沿った教科書等の作成・整備を、(独)国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとともに支援してきており、2024年度が最後の助成の年となりました。

これまでに制作・出版された、第一外国語としての日本語の教科書やワークブックは、ハノイの一部の小学校にて使用され始めています。また、改訂された第二外国語としての日本語の教科書やワークブックも、中等教育機関をはじめとするベトナム全国の学校にて、日本語学習に役立てられています。



2025年度の主な予定

2025年6月

新奨学生証書授与式

2025年7月

第9回高校生カンボジアスタディツアー

2025年8月

講演会・鼎談

「学校・地域で育む、未来を担う地球市民」

～地球と日本の未来を見据え、教育者にこれから求められる視点とは～

かめのりカレッジ2025

JICAインドネシア派遣事業

2025年9月

大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会
多文化共生塾 (東北)

2025年10月

にほんご人フォーラム2025 (タイ)

Kamenori Youth Connect : Philippines
2025 (フィリピン)

2025年11月

フィリピン・デラサール大学訪日プログラム
多文化共生塾 (中部)

2025年12月

かめのり未来をつくるリーダーシップ
プロジェクト2025
多文化共生塾 (九州)

2026年1月

かめのりフォーラム・セッション2026
多文化共生ネットワーク会議

2026年2月

中学生交流プログラム (インドネシア)

※実施時期が変更になる場合がございます。ご了承ください。



公益財団法人 かめのり財団

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-5 ベルヴュー麹町1階

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : https://www.kamenori.jp/

かめのり財団 Web & SNS

